週報
2026 8/12
No.5
RI第2620地区
静岡第1グループ

三島ロータリークラブ
第3281回・通常例会

■会長:松田吉嗣君■幹事:綾部　剛君
●司会:大庭治美君
■URL:http://mishima-rc.com



今回の週報のトップ写真は8月の花「向日葵」です。
夏の象徴と言っていい花ですよね！
最近、「ひまわり畑」なる所が人気で、北海道の方では約200万本の向日葵が咲く場所があるとか…。
大量の向日葵もいいですが、向日葵は、1本なら「一目惚れ」、3本なら「愛の告白」、99本なら「永遠の愛」と本数によってそのメッセージがいろいろと変わるようです。
それでは、向日葵108本のメッセージは何でしょう？

会長挨拶

会長　松田吉嗣君

皆さん、改めましてこんにちは。
本日は、当クラブとして初めての三島商工会議所4階での例会開催となります。これにつきましては、これまで例会場としていた呉竹様の例会費値上げに伴い、年間10回程度、こちらの商工会議所を利用させていただくこととしたためです。本日のお食事は、来年度の会長であられる伊丹君にお願いしたお弁当です。「来期の会長として恥ずかしくない、美味しいお弁当を」と私から大きなプレッシャーをかけてハードルを上げておいたのですが（笑）、いかがだったでしょうか。大変素晴らしいお弁当で、呉竹様での例会に劣らない内容であったと感じております。今後、商工会議所での例会は4階だけでなく、1階や3階で行う場合もございますので、お間違いのないよう出席をお願いいたします。
さて、あと数日もいたしますと、いよいよ三嶋大祭りが始まります。私たちは普段「お祭り」と呼んでおりますが、実は6～7年前までは、市からの補助金対象として「三嶋大社のお祭り（大社祭り）」という名称でずっと引き継がれておりました。現在、三島市からは大社実行委員会へ約2,600万円の補助金が支給されています。しかし当時、特定の宗教・社寺の祭事に対して市の補助金を出すのはいかがなものかという議論が起こりました。
そこで当時の担当部署が協議を重ねた結果、大社の名前を外し、市民全体のお祭りとして「三嶋大祭り（三島大まつり）」へと名称を改めることで、この課題をクリアしたという経緯がございます。今ではすっかりこの名前が定着しております。
かつて三島ロータリークラブでは、お祭りの時期になるとみんなで「農兵節」を踊り、その後は登喜和に集まって一献交わすのが恒例だったと先輩方から伺っております。本日も新しい会場での例会となりますが、お祭りを前に皆様と和やかに親睦を深め、楽しい時間をお付き合いいただければ幸いです。ありがとうございました。

出席報告

	出席総数	出席率	
今　回	31／42	73．81%	会員総数：43名

＜欠席者＞
・青木君　・太田君　・加藤（頌）君　・河田君　・古口君
・杉村君　・瀬川君　・関君　・永田君　・森田君　・八木君



幹事報告

幹事　綾部剛君

1. 2027-2028年度 地区委員会委員の推薦について
次々年度（2027-28年度）における地区委員会の推薦の案内が届いております。「地区の委員として活動してもよい」という方、または立候補される方は、取りまとめを行いますので幹事までご連絡をお願いいたします。
2. 熊本地震義援金募金について
先週に引き続き、今週も例会内に募金箱を回させていただきます。先週すでにご協力いただいた方もいらっしゃいますが、先週ご欠席だった方や追加でご協力いただける方は、ぜひ温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。
3. 地区大会の開催および出欠の取りまとめについて
今朝、地区大会の案内が届きました。申し込みの締め切りは9月14日（月）となっておりますので、幹事が取りまとめますので会員の皆様は出欠のご回答をよろしくお願いいたします。

卓話

【卓話 1】「地方議会と視察旅行の今昔」

スピーカー：松田 吉嗣 君

本日、急遽幹事からの指名で私が代役を務めさせていただきます。私はこれまで卓話を拝命した際、長年携わってきた「消防団活動（今年3月に47年間の活動を経て引退）」のお話ばかりをしてまいりましたが、本日は初めて「地方議会」にまつわるお話をさせていただきます。

よく市民の皆様から「昔の地方議会は、色々と派手にやっていたのではないか」と聞かれることがあります。振り返ってみますと、私が市議会議員に初当選した24年前（1期目）の頃は、確かに現在とは大きく状況が異なっておりました。当時は視察旅行というと温泉旅館に2泊し、夜には芸者を呼ぶことも珍しくありませんでした。また、翌朝の朝食会場にはすでにビールが並んでおり、朝風呂を浴びてビールを飲んでから、ほろ酔い加減でバスに乗って視察先へ向かうという豪快な先輩議員が大勢いたのも事実です。しかし、今ではそのような風潮は完全に淘汰され、襟を正した運営がなされています。私が2期目を迎える頃には、宿泊先としての温泉旅館の利用を廃止し、ビジネスホテルに宿泊してます。現在、三島市議会の規定では、議長および副議長は市長の旅費規定に準じ、一般議員は副市長や教育長の規定に準じて算出されます。また、三島市では政務活動費として議員1人あたり月額15,000円（年間18万円）が交付され、これが所属会派にプールされて調査研究（視察）費用に充てられます。「インターネットやAIで何でも調べられる現代に、わざわざ現地に行く視察は必要なのか」という議論もありますが、やはり百聞は一見にしかず、自分の目で確かめることには大きな価値があります。例えば、私が以前神戸へ視察に行った際、地元のコンビニや公共施設にいち早くAED（自動体外式除細動器）が広く設置されているのを目にしました。これに大変感銘を受け、三島に帰ってから「三島市でもコンビニ等の公共スペースにAEDを設置すべきだ」と議会で強く提案した結果、現在の市内における広範なAED設置へと繋がりました。これこそが現地に足を運んだ視察の大きな成果であると自負しております。また、私たちは視察を受ける側の条件として「三島市内で昼食をとること、または宿泊すること」を条件に受け入れを行っています。これは全国どこでも共通のルールであり、お互いに現地に足を運んで地方にお金を落とし合うことで、地域経済を循環させるという大切な役割も担っているのです。

【卓話 2】「青年会議所（JC）世代から見たロータリーへの本音」

スピーカー：会員増強・維持委員長　朝日　孝徳 君

今年度、会員増強委員長を拝命しております。新会員を勧誘するために様々な会合でアピールをしておりますが、単に熱意をぶつけるだけでは限界があると感じております。 私は過去に青年会議所（JC）を約10年間経験しており、年齢的にも現役のJCメンバー（40歳以下）に近い立場にあります。そこで、彼ら若手経営者層が「なぜロータリークラブへの入会を躊躇するのか」その本音と嫌がる理由を調査すべく、先月のゴルフコンペに集まった若手約40名にアンケートをとってまいりました。分析の結果、若手がロータリーを敬遠する主な理由は以下の5つに集約されました。

会費が高いというイメージ

ロータリーの年会費は約30万円ですが、JCの年会費は12万円程度です。そのため、外からは非常に高く感じられています。しかしこれは大きな誤解です。JCメンバーは会合のたびに2次会、3次会と高額な飲み会を繰り返しており、実態としてはJC時代の方が遥かにお金を使っていました。ロータリーの会費には、毎回の充実した例会お弁当代が含まれていることを説明すれば、十分に納得してもらえるポイントです。

「また1番下の下積みからやり直し」というプライド

JCで40歳まで役職を務め上げ、自社でも役員や社長の地位にある若手にとって、ロータリーで再び「最下級生」として下働きをさせられるのではないかという心理的抵抗（承認欲求）があります。これに対しては、「今入会すれば、これまでの経験を活かしてすぐに委員長などの重要なポストで活躍できる」と、若い力を必要としている現状を伝えてアプローチするのが効果的です。

過度な時間拘束への警戒

JCのように、週に何度も朝から晩まで拘束されるのではないかと身構えている若手が多いです。実際は「週に1回、お昼の1時間だけ出席すればよい。難しい運営や手続きはベテランの先輩方がしっかりサポートしてくれる」というロータリーの合理的なシステムを説明することで、彼らの不安を解消できます。

活動の具体性や目的が見えにくい

「具体的に何をして、どこに向かっているクラブなのか」という目的意識を求める、志の高い若手経営者が意外と多いです。これについては、私のような浅い歴のメンバーだけでは説明しきれない部分があるため、ぜひ歴史と実績を熟知された大御所先輩方の知恵と直接の言葉をお借りして、ロータリーの素晴らしい奉仕理念を伝えていただきたいと考えております。

平日の日中（例会時間）に仕事を抜けられない

30代から40代の現役世代にとって、最も忙しい営業時間の真ん中に会社を空けることは確かにハードルとなります。これについては個々の仕事のやりくりを応援していくしかありませんが、移動例会や夜間例会の楽しさをフックにアプローチしてまいります。

課題がはっきりと見えましたので、これらの誤解を一つずつ丁寧に解きながら、今年度の増強目標を達成できるよう全力で取り組んでまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【卓話 3】「カンボジアの教育支援と対人地雷の現実」

スピーカー：JHP・学校をつくる会 代表　山岡 修一 君

私は、認定NPO法人「JHP・学校をつくる会」の代表を務めております。この団体は、テレビドラマ『3年B組金八先生』などの脚本家として知られる小山内美江子氏が、ポルポト政権による知識人らの大虐殺（約120万人）で崩壊したカンボジアの教育をゼロから復興させるために立ち上げた会であり、私は設立当初から関わり、現在は代表を引き継いで活動しております。本日は、カンボジアの地雷問題と教育の現状についてお話しいたします。

本日、皆様に手渡して回していただいているのは、私がカンボジアの現地で除去されたものを持ち帰ってきた「対人地雷」のレプリカです。触っていただくと分かりますが、手のひらに収まるほど非常に小さなものです。 対人地雷という兵器は、踏んだ人間を「殺すため」に作られたのではありません。足を吹き飛ばすなどあえて「体の一部を傷つけること」を目的としています。なぜなら、1人の兵士が傷つけば、それを後方に救護・搬送するために別の兵士が2人拘束され、結果として敵の戦力を一挙に3人削ぐことができるという、極めて非人道的な計算のもとに設計されているからです。中には、子どもが興味を持って拾うように「おもちゃ」の形を模した凄惨な地雷すら存在していました。27年前に私が初めてカンボジアへ渡った当時、地雷で両足を失った人々が、自ら木を削って作った粗末な義足をあてて暮らしている姿を多く目にしました。ベトナム戦争時の枯葉剤の影響で、生まれつき手足に障害を持った子どもたちが物乞いをして暮らしている現実にも直面いたしました。

私たちは、東京ロータリークラブ様などのご支援のもと、CMAC（カンボジア地雷除去センター）と密に連携し、地雷除去作業とその跡地への学校建設を進めてまいりました。これまでにカンボジアへ40回以上足を運んで支援を続けております。

現在のカンボジアは、中国資本の急激な流入により驚くほどの発展を遂げており、商業の中心も完全に中国系にシフトしつつあります。世界中で今なお紛争や内戦が絶えない中、日本ほど穏やかで平和な暮らしが保たれている国は他にありません。

間もなくお盆（終戦記念日）を迎えるにあたり、この日本の平和がいつまでも続くことを祈るとともに、私たちの最愛の子どもや孫たちを二度と戦場へ送るようなことがあってはならないという強い信念を持ち、今後も教育を通じた国際奉仕活動に身を捧げてまいりたいと思います。

※紙面の都合でスマイルは次号に掲載します。